

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

新城市地域公共交通活性化協議会

平成19年12月26日設置

フィーダー系統 平成28年6月1日 確保維持計画策定

新都市の将来像

ひと 市民がつなぐ 山の湊 創造都市

第1次新都市総合計画（策定：平成20年4月 計画期間：20年度～30年度）

- 公共交通に関する重点施策：公共交通網の整備と利用向上
- 主な事業：公共バスの運行、飯田線の活性化 ■目標：公共交通機関等の充実と満足度の向上

新都市地域公共交通総合連携計画～山の湊 創造都市を支える公共交通づくりに向けて～ （策定：平成20年2月 計画期間：20年度～29年度）

—基本方針—

民間路線バスの撤退や、合併による市域広域化への対応など、これまでの路線維持にとどまることなく、市民にとって満足度の高い新たな公共交通システムの構築を目指す。

★新公共交通システム推進の6つのポイント

運行形態・路線網の検討

バス関連施設の整備

ニーズの把握と反映

地域・利用者の参画

利用しやすい料金体系

積極的な情報提供

計画期間中に起きた変化や課題を踏まえて

新都市地域公共交通網形成計画

（策定：平成29年3月 計画期間：29年度～33年度）

新城市地域公共交通網形成計画 基本理念

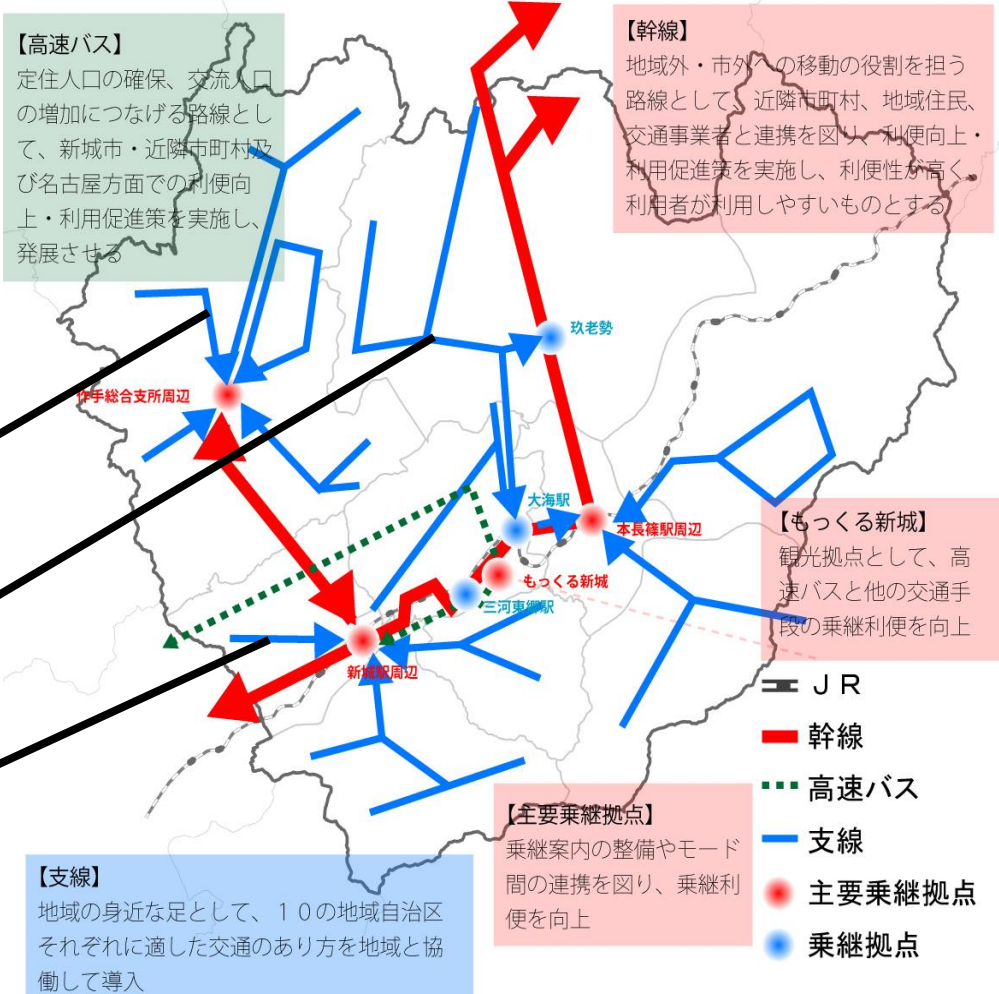
公共交通の現状と必要性を全市で共有し、一人ひとりが公共交通を維持・発展させていきます

〈基本方針〉

方針1 公共交通の現状を地域で共有し、地域・行政・交通事業者で公共交通網を作ります

方針2 組織間の連携を図り、関係者と一体となって利便を向上させます

方針3 地域に愛され、「利用したくなる」公共交通を作ります



つくであしがる線

塩瀬線

西部線

フィーダー補助路線

将来の公共交通ネットワーク

【新城市地域公共交通網形成計画の目標】

指標	現状【H27】	目標【H33】
Sバス利用者数	159,839人	170,000人
Sバスへの市負担額	111,809千円	現状維持
Sバス収支率	18.3%	19.4%
民間バス利用者数	201,767人	現状維持
高速バス利用者数	4人/便程度（H28）	20人/便程度（H31）
バス利用者満足度	1.10	1.16
バス利用者認知度	82.1%	90.0%
地域での検討会議	0地域	全地域
高校との協議会	0校	市内全校

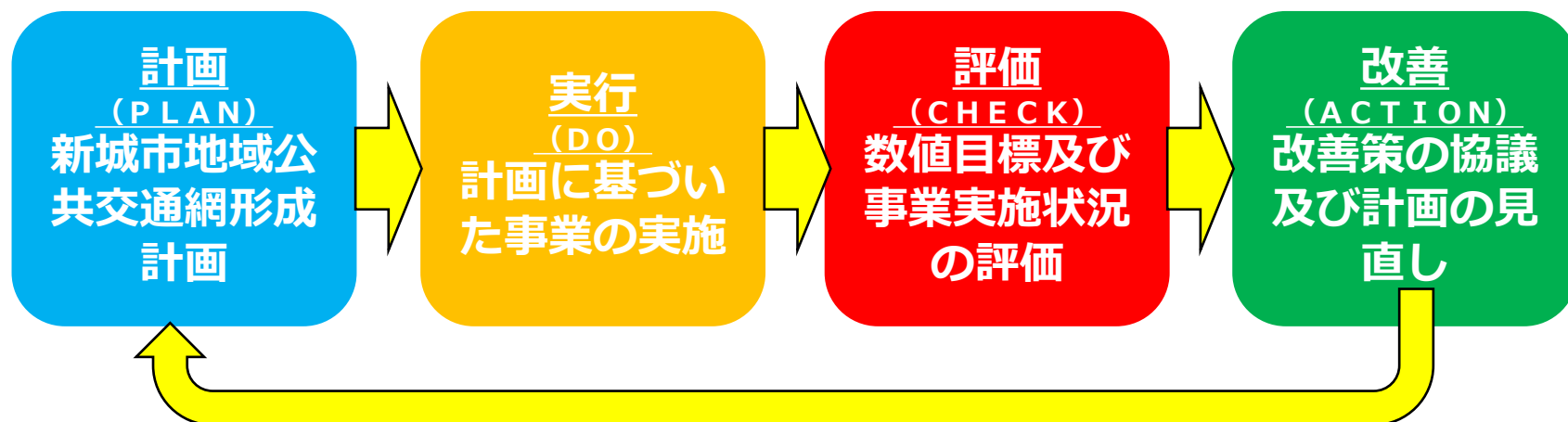
目標を達成するための
評価方法（目標値は毎年度設定）

① Sバスについては、利用者数、収支率、満足度について毎年度評価

② 民間バス、高速バスについては、利用者数、満足度について毎年度評価

③ Sバスは小中学生のスクールバス利用を除いた利用者数について評価

【PDCAサイクルの流れ】



【目標達成に向けた取組内容】 ※フィーダー補助路線に係る取組については赤字で記述

方針1 公共交通の現状を地域で共有し、地域・行政・交通事業者で公共交通網を作ります

実施内容	実施時期
高速バス 回数券発売開始	H29.1.1
Sバス西部線 路線延長及びバス停新設実施	H29.1.4
リニモ沿線イベントで高速バス「山の湊号」PR実施	H29.3.5
地域協議会会長会で地域への説明会依頼と現況説明	H29.5.29
鳳来中部地域協議会での現況説明及び協議	H29.6.28
高速バス バス停新設及びダイヤ変更実施	H29.7.1
鳳来南部地域協議会での現況説明及び協議	H29.7.7
第1回 田口新城線検討会議開催	H29.7.12
作手地域協議会での現況説明及び協議	H29.7.14
高速バス 回数券名古屋での販売開始	H29.8.1
第2回 田口新城線検討会議開催	H29.8.8
第1回 作手地区市民公共交通ワークショップ開催	H29.8.18
塩瀬線・布里田峯線を守り育てる会開催	H29.9.19
秋葉七滝線を守り育てる会開催	H29.9.20



高速バス「山の湊号」
新設バス停：新城市民病院西



高速バス「山の湊号」
新設バス停：もっくる南



作手地区市民公共交通
ワークショップの様子

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

方針2 組織間の連携を図り、関係者と一体となって利便を向上させます

実施内容	実施時期
市内3高校及び田口高校へのアンケート調査実施 (高校との連携)	H28.11.28 ～H28.12.16
公共交通を活用した新城お出かけMAP作成 (観光部局との連携)	H28.12.1
高速バスを活用した湯谷温泉宿泊プラン開始 (観光部局との連携)	H29.2.1～
運転免許自主返納支援事業開始 (警察との連携)	H29.9.1～



「ちょっとどこまで 湯谷温泉へ80分の旅」
特別価格をご用意しました！月曜日～水曜日の限定
4名様以上での申込みです。(5月までの限定プラン)

特別ハイクラスをご用意いたします！

名古屋(愛が丘)～新城 高速バスご利用希望者限定！

旅館ひとご	湯谷の静けさと温泉のよ うな自然環境が評判の上 ¥9,800/人 0536-32-1212	湯谷観光ホテル 湯山荘	お風呂はすべて温泉掛け 流し。貴客風にも対応。 ¥12,960/人 0536-32-1212
湯の風HAZU	湯谷の湯めぐり温泉の湯郷。 大きな露天風呂が人気。 ¥9,800/人 0536-32-1211	はづ別荘	湯谷の湯めぐり温泉の湯郷。 大きな露天風呂が人気。 ¥12,960/人 0536-32-1211
旅花みづい	湯谷の湯めぐり温泉の湯郷。 大きな露天風呂が人気。 ¥9,800/人 0536-32-1211	はづ木	湯谷の湯めぐり温泉の湯郷。 大きな露天風呂が人気。 ¥12,960/人 0536-32-1211
離れのお宿 松風荘	湯谷の湯めぐり温泉の湯郷。 大きな露天風呂が人気。 ¥10,000/人 0536-32-1211		

主催：湯谷温泉会 後援：新城市観光協会

湯谷温泉宿泊プラン チラシ

方針3 地域に愛され、「利用したくなる」公共交通を作ります

実施内容	実施時期
新城市バスマップ改定及び配布	H29.4
市政番組でのバス乗り方教室放送 (長篠山吉田線)	H29.5.3～
鳳来南部地域でバスに関する出前授業開催	H29.7.18
市政番組でのバス乗り方教室放送 (高速バス)	H29.8.2～
市政番組でのバス乗り方教室放送 (作手線)	H29.8.9～
しんしろ軽トラ市でバス乗車イベント開催	H29.8.27



29年度版 新城市バスマップ

4. 具体的取組みに対する評価

※利用者数は、**小中学生のスクールバス利用を除いた人数**で算出

※目標値は27年度実績（H26.10.1～H27.9.30）を基に、利用者数はSバスは1.01倍、民間バスは現状維持、高速バスは28年度実績の2倍、収支率は1.01倍、満足度は+0.01として設定

評価基準

A・利用者数及び収支率の達成度が100%以上で満足度が1.0以上の場合

B・利用者数又は収支率の達成度のいずれかが100%を超えた場合

B・利用者数及び収支率の達成度が100%を下回ったが、満足度が1.0以上の場合

C・利用者数及び収支率の達成度が100%を下回り、満足度も1.0より小さい場合

路線名		利用者数（カッコ内は総数）			収支率（%）			満足度数（基準値は1.0）			自己評価
		目標値	29年度	達成度	目標値	29年度	達成度	目標値	29年度	達成度 (1.0との差)	
S バス 新城 地区	作手線	43,759	46,062	105%	28.30%	29.47%	104%	1.01	1.00	0.00	A
	中宇利線	15,752 (54,839)	13,896 (46,116)	88%	37.15%	31.64%	85%	1.12	1.20	+0.20	B
	吉川市川線	3,451 (10,723)	2,834 (9,134)	82%	12.49%	11.06%	88%	1.16	1.17	+0.17	B
	北部線	4,119 (8,162)	3,555 (6,711)	86%	11.28%	8.71%	77%	1.09	1.04	+0.04	B
	西部線 (フィーダー路線)	3,510	3,019	86%	7.34%	6.30%	85%	1.05	1.04	+0.04	B
S バス 鳳来 地区	布里田峯線	394 (3,610)	778 (4,384)	197%	10.29%	10.61%	103%	1.10	1.09	+0.09	A
	塩瀬線 (フィーダー路線)	1,623 (6,360)	1,505 (2,494)	92%	8.69%	2.75%	31%	1.15	1.03	+0.03	B
	秋葉七滝線	2,575 (8,732)	1,601 (8,950)	62%	10.90%	9.71%	89%	1.18	1.10	+0.10	B
	長篠山吉田線	2,074 (16,452)	2,528 (14,930)	121%	30.55%	21.48%	70%	1.07	1.04	+0.04	B

4. 具体的取組みに対する評価

路線名		利用者数（カッコ内は総数）			収支率（%）			満足度数（基準値は1.0）			自己評価
		目標値	29年度	達成度	目標値	29年度	達成度	目標値	29年度	達成度 (1.0との差)	
S バス 作手 地区	守義線	2,258 (4,294)	2,545 (5,334)	112%	8.67%	6.72%	77%	1.13	1.06	+0.06	B
	つくで あしがる線 (フィーダー路線)	980	971	99%	2.42%	1.96%	80%	1.20	1.13	+0.13	B
民間 バス	田口新城線	51,051	52,000	101%	—	—	—	1.06	1.02	+0.02	A
	四谷千枚田 新城線	6,319	9,550	151%	—	—	—	1.04	1.08	+0.08	A
高速 バス	高速バス 「山の湊号」	8人/便	6.5人/便 (H29.9)	81%	—	—	—	—	1.13	+0.13	B

目標達成状況についての考察

- ・自己評価がAとなった路線の中で作手線・田口新城線・四谷千枚田新城線については、高校生の通学利用増が要因である（←高校へのアンケート調査より）
- ・布里田峯線については26年度の路線延長により、本長篠駅前まで直通で行けるようになり、その付近への用事がある人が利用が増加したことが要因である（←満足度調査より）
- ・自己評価がBになった路線についてはほとんどの路線で利用者数、収支率が目標値を達成できていない。全ての路線に共通して、それまで定期的に利用していた高齢者が施設に入所したり亡くなってしまったことが要因として挙げられる（←満足度調査及び運転手の方へのヒアリング調査より）

今後の方針

- ・自己評価結果を地域へフィードバックし、この結果を基に地域と協議を行い、連携して路線の見直し、利便向上策、利用促進策を実施する

※上記自己評価については平成29年1月9日の新城市地域公共交通会議で協議した

5.自己評価から得られた課題と対応方針

方針1 公共交通の現状を地域で共有し、地域・行政・交通事業者で公共交通網を作ります

課題 Sバスの利用者減少



対応 地域と一体となった施策の実施

29年度のSバス利用者数は、多くの路線で目標値を下回り、昨年度よりも減少した。29年度は地域協議会会長会で現状についての説明を行い、モデル地区である作手地区と住民組織「地域の足を守る会」が立ち上がった鳳来南部地区で地域住民と路線の再編、利便向上策、利用促進策についての協議を行った。路線を守り育てる会についても開催し、中学校のカリキュラムの変更や地域住民の生活に合わせたダイヤに変更するための協議を行った。今回の自己評価結果も地域へフィードバックし、引き続き地域と一体となった取組を進めることで利用者増につなげる。

課題 地域間幹線の強化



対応 関係者と一体となった施策の実施

29年度地域間幹線（作手線・田口新城線）の利用者数は、目標値を上回ったものの、田口新城線については周辺の高校の閉校や小学校の統廃合により長期的な減少傾向にあり、作手線については、利用者数の大部分を高校生が占めているため、そうした状況の変化によっては、利用者数が大幅に減少することも考えられる。また、31年度には沿線にある高校の統廃合があり、利用者数に大きな影響をおよぼすと考えられる。こうした事態に対応するため、沿線市町村、交通事業者、高校といった関係者が一体となり、経路及びダイヤの見直し、利便向上策・利用促進策の実施といった対応を早急に進める。

方針2 組織間の連携を図り、関係者と一体となって利便を向上させます

課題 連携施策の周知拡大



対応 イベントと連携したPRの実施

29年度、関係者と一体となった利便向上施策として、「公共交通を活用した新城お出かけMAP作成」と「高速バスを活用した湯谷温泉宿泊プラン開始」、「運転免許自主返納支援事業開始」を実施した。しかし、地域住民等への周知が不十分である。こうした施策の周知を拡大し、利用増につなげていくため、ホームページや広報等でのPRだけでなく、新城市及び名古屋で開催されるイベントでのPRや、警察署と連携し、運転免許自主返納の講習会などでPRを行う。

方針3 地域に愛され、「利用したくなる」公共交通を作ります

課題 公共交通利用案内の強化



対応 コンテンツプロバイダーへの掲載及びマイマップの発行

29年度、公共交通の利用案内として、4月に「新城市バスマップ」を作成し、市内全戸への配布と各施設への配架を行った。このバスマップについて、利用者からは乗り継ぎが分かりづらいといった意見が出ている。こうした事態に対応するため、若者向けの利用案内として、コンテンツプロバイダーへの掲載、高齢者向けの利用案内として、その人が利用する区間のみを記したマイマップの発行を行う。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

新城市地域公共交通活性化協議会

平成19年12月26日設置

フィーダー系統 平成28年6月1日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>各路線ごとに地域が主体となった「路線を守り育てる会」により確保維持改善を行っていることは評価します。一方で、機能している会が一部となっており結果的に利用者の減少を招いていることから、てこ入れが必要です。</p> <p>今後は、近隣市町村と連携を更に強め地域間幹線系統である田口新城線の方向性を検討した上で、地域住民との協働により公共交通の見直しや利用促進を行う組織の位置づけを明確にし、地域間幹線系統も含めた地域公共交通網形成計画を策定することを期待します。</p>	<p>○新城市地域公共交通網形成計画の策定 新城市地域公共交通会議での協議も踏まえながら、平成29年3月に新城市地域公共交通網形成計画を策定した。</p> <p>○計画への地域住民との協働についての記述 地域住民と協働して路線の見直しや利用促進を行うため、「地域・行政・交通事業者で公共交通を支える体制づくり」という内容を計画に記述した。</p> <p>○計画への田口新城線に関する内容の記述 田口新城線活性化のため、「協議組織の設置」、「高校統合に合わせた運行経路の見直し」、「他の路線との乗継利便の向上」「観光路線としての役割強化」、「料金体系の見直し・運賃割引制度の導入」という内容を計画に記述した。</p>	<p>新城市地域公共交通網形成計画に基づき、関係者と連携しながら、より良い公共交通ネットワークを形成するため、施策を進めていく。</p>

地域自治区制度との連携

地域自治区制度とは

平成25年度からスタートした「地域自治区制度」で設置された「自治振興事務所（市内を10の自治区に分け担当職員を配置、地域のサポート役となる組織）」に寄せられる「地域・利用者の声」を今後の公共交通に生かすため、同事務所担当職員と連携しながら路線見直し等を実施している。

また、地域ごとに異なる課題・相談内容を地域自身の問題として考えてもらうように働きかけつつ、地域自身が積極的に考え活動できるよう「地域活動交付金」などのサポート制度についても触れながら、地域の実情に応じた行動に繋がるよう努めている。

29年度は鳳来南部地域の市民団体「地域の足を守る会」が交付金を活用

7月	公共交通についての勉強会
8月	恵那市「いいじ里山バス」視察

「いいじ里山バス」視察の様子



バスに親しみを持ってもらうためのイベントの実施

バスに親しみを持ってもらうため以下のイベント・PRを実施

H29.5	市政番組でのバスの乗り方PR（長篠山吉田線）
H29.8	市政番組でのバスの乗り方PR（高速バス）
H29.8	市政番組でのバスの乗り方PR（作手線）
H29.8	しんしろ軽トラ市でバス乗車イベント開催



乗車イベントの様子

2017年大河ドラマ「おんな城主 直虎」と関連したPR

29年度版「新城市バスマップ」に井伊家ゆかりの地として「鳳来寺山」、「柿本城跡」、「宇利城跡」を掲載

市政番組での長篠山吉田線PRの際に「バスで行けるおすすめスポット」として柿本城跡を紹介



バス満足度調査の実施

路線バス利用者の満足度を聞くため、実際に職員がバスに乗り込み、聞き取り調査を行った